

第4回須坂新校再編実施計画懇話会

日時：令和4年6月27日（月）

18時～19時30分

会場：須坂市生涯学習センター ホール

<次第>

1 開 会

2 挨拶

3 自己紹介

4 会議事項

（1）「第3回須坂新校再編実施計画懇話会」まとめ

（2）テーマ別意見交換

5 その他

<次回の予定>

（1）第5回須坂新校再編実施計画懇話会

（日時） 令和4年8月を予定

（会場） 須坂市生涯学習センターを予定

（内容） 有識者による講演を予定

6 閉 会

須坂新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○は新構成員

	区分	氏名	所属等	意見交換グループ
1	自治体	三木 正夫	須坂市 市長	A
2		新井 隆司	小布施町 副町長	B
3		藤沢 敏和	高山村 副村長	C
4		小林 雅彦	須坂市教育委員会 教育長 (座長)	
5	産業界	春原 博	須坂商工会議所 専務理事	C
6		神戸 佳代	小布施町商工会 女性部長	A
7		久保 正直	アスザック株式会社 代表取締役社長	B
8	同窓会	浅井 洋子	須坂東高等学校同窓会 会長	D
9		霜田 剛	須坂創成高等学校同窓会 副会長	B
10	学識経験者	半田 志郎	国立大学法人信州大学工学部 特任教授	A
11	PTA	○坪井 育美	須坂東高等学校PTA 会長	B
12		鈴木 勝	須坂創成高等学校PTA 会長	A
13		島田 千春	上高井郡市PTA連合会 副会長	D
14	小中学校関係者	坪井 扶司夫	上高井校長会 代表 (墨坂中)	C
15		新井 孝之	上高井校長会 代表 (日野小)	D
16	地域	中坪 成海	長野地域振興局長	D
17		二ノ宮 邦彦	元 県立高等学校長	B
18		大宮 透	元 慶応SDM・小布施町ソーシャルデザインセンター主任研究員	C
19	再編対象校	畔上 大空雅	須坂東高等学校生徒会 会長	A
20		内田 陽菜	須坂東高等学校生徒会 副会長	B
21		丹下 駿	須坂創成高等学校生徒会 会長	C
22		望月 梨々音	須坂創成高等学校生徒会 副会長	D
23		宮尾 悟良	須坂東高等学校長	B
24		山岸 暢	須坂東高等学校 教諭	C
25		羽山 功	須坂創成高等学校長	A
26		小林 英司	須坂創成高等学校 教諭	D

事務局

須坂東高等学校		須坂創成高等学校		高校再編推進室	
宮下 由夫	教頭・副事務局長	峯村 勲	教頭・事務局長	山岸 明	主幹指導主事
嶋田 順一	D	小林 英司	D	高野 幸子	課長補佐
酒井 健次	A	柳澤 亘	C	有坂 清明	主任指導主事 (須坂新校担当)
山岸 暢	C	山口 新一	D		
高坂 亨	C	辻 隆秀	B		

第3回 須坂新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和4年4月26日（火） 18時00分～19時30分		
場所	須坂市シルキービル 3階 第1ホール		
出席 (敬称略)	三木 正夫, 新井 隆司, 藤沢 敏和, 小林 雅彦, 春原 博, 神戸 佳代, 久保 正直, 浅井 洋子, 霜田 剛, 西澤 浩文, 鈴木 勝, 島田 千春, 宮尾 悟良, 山岸 暢, 羽山 功, 小林 英司, 半田 志郎, 中坪 成海, 二ノ宮 邦彦, 大宮 透, 畔上 大空雅, 内田 陽菜, 丹下 駿, 望月 梨々音 (以上24名)		
欠席 (敬称略)	坪井 扶司夫, 新井 孝之 (2名)	傍聴者	6名
事務局	須坂東高校	宮下 教頭 (副事務局長), 島田 教諭, 酒井 教諭, 山岸 教諭, 高坂 教諭	
	須坂創成高校	峯村 教頭 (事務局長), 小林 教諭, 柳澤 教諭, 山口 教諭, 辻 教諭	
	県教育委員会	山岸 主幹指導主事, 高野 課長補佐, 有坂 主任指導主事	
当日資料	次第, 第2回須坂新校再編実施計画懇話会まとめ (案), 第2回懇話会アンケートまとめ, 須坂新校懇話会スケジュール (案), 生徒発表資料 (須坂東高校, 須坂創成高校)		

会議事項

- (1) 第2回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめ (案) について
- (2) 須坂新校再編実施計画懇話会今後のスケジュール (案) について
- (3) 生徒による学校・学びの紹介、質疑応答 ① 須坂東高校 ② 須坂創成高校
- (4) 意見交換

構成員から出された主な質問・意見(要旨) (→生徒の回答)

<須坂東高校の発表>

- ・生徒自身が自分で考えて行動し、生徒を先生が信頼しているからこういった活動ができています。
- ・探究的な学習の際は、先生ではなく、地域の人たちと会話をしているが、どんな感想をもつか。
→実際に働いている方にしかわからない苦労、その仕事の喜びを直接感じることができる貴重な機会となっている。色々な人と情報交換できるというのがポイントだと思っている。

<須坂創成高校の発表>

- ・農業科の学習内容で、「プラスマーケティング」という言葉が出来てきたが、詳しく教えてほしい。
→生産された農産物をどう販売するか話し合っている。農業科の生産した農作物を商業科がどのように商品化し販売するか考え、工業科がラッピングを製作するなど、3学科で連携している。
- ・創成高校がこれだけやっているとは知らなかった。保護者も含めて中学生のうちから周知をしていけば、特色のある学校へ行くようになるのではないかと。

<意見交換>

- ・実際に両校の授業を懇話会のメンバーで見学することは可能か。
- ・普通科と専門科が全部一緒のキャンパスの中に共存しているという、今までにない高校ができる。今回の話を聞いて少しずつイメージができてきたのではないかと。
- ・須坂市内の3校の生徒が意見交換すること自体が地域にとってプラス。こういう機会を設けていきたい。

その他

【次回】

日時：令和4年6月27日（月）

会場：須坂市生涯学習センター 3階 ホール

内容：テーマ別意見交換、期待する新校の学びのイメージへの意見交換

第3回須坂新校再編実施計画懇話会アンケートのまとめ

1 生徒の発表への感想

- 両校ともに大変素晴らしいプレゼンであったかと思う。特に創成高校は、プレゼンを通してそれぞれの学科で大変レベルの高い授業をされているように感じた。
- とても充実した高校生活を送っていることがよく伝わってきた。
- 須坂創成高校は統合を経て新たに総合技術高校としてスタートした「学び」の特徴が前面に出ており、これから統合新校の「学校像」や「学びのイメージ」を検討する上で参考にすべき点が多くある。須坂東高校の100年を超える伝統を良い面で活かしていくことも重要である。
- 須坂東高校の生徒会活動や文化祭活動において、コロナでもみんなで楽しくできる事を生徒自ら柔軟に考えて進めている様子が伝わってきた。先生方も生徒たちに寄り添い関わっていると感じた。そういった生徒と先生の信頼という部分は大切に出来たら良いと感じた。
- 創成高校の工学科の生徒が自分には向いていないとわかって自分の会社を作るという実現へ意欲を持って学校生活の取り組んでいて、高校生で実際に現場を体験することが出来る利点だと感じた。
- 両校の特徴を表す良い発表だった。須坂東高校は学校生活、須坂創成高校は学習内容が中心と思われ、普通科と総合技術系でそれぞれ学校生活に対する思いが表れていると感じた。

2 前回の懇話会および今回の生徒の発表を踏まえての、新校での学びに関する意見

- 労を惜しまず、地域のために貢献することはとても大切なこと。将来、自分の生まれ育った地域に戻って生活するうえでも地域の皆さんとのふれあいを大切にしてほしい。さらに、地元自治体や地元企業との連携を強くしてほしい。
- 次の3点を踏まえ、「徹底した地域密着型の新たな学び」のモデルを作ったらどうか。
 - ・須坂創成高校のデュアルシステムなど両校がこれまで培ってきた地元企業や自治体等とのつながりを学科毎に一層発展させていく。
 - ・「新たな普通科」を含めた各学科間の新たな連携の仕組みづくりを進め(例えば、学科を超えた共通の探究活動の実施など)、学校としての一体性も発揮していく。
 - ・新校の特色・魅力を他校と差別化することで地域の中학생や保護者にアピールしていく。
- 決められたことに従うのではなく、自ら意思決定して行動でき、自分の未来を自ら形成する人間力を身につけられたら良い。また、挑戦し新たな価値を創造できるような学びができれば良い。
- 具体的にお示しできなくて申し訳ないが、両校の特徴を生かし、1+1が3以上になるような新校になっていけば良い。

3 新校での部活動や生徒会活動についての意見

- スポーツを中心に様々な部活動に取り組まれて、輝かしい成績を収めているが、専門性を活かした特色ある部活動があっても良いかと思う。
- 今まで部員確保が難しく出来なかった部活やこの高校にしかない部活を作ることも出来るのでより充実したものになる。

4 その他

- 制服のある創成高校と私服の東高校が再編された際、どのように服装を調整するのか。生徒の意見も聞いたうえで検討が必要。
- 不登校のためのスクールカウンセラーの配置や派遣はあるのか。また、不登校からの退学や中途退学者を出さないようなカリキュラムなども組み込まれているのか、そのあたりも知りたい。
- 学習内容もさることながら、制服についても早めに生徒等の意見を聞きながら方向性をだしていったほうがよい。

第4回須坂新校再編実施計画懇話会 テーマ別意見交換資料

(「第2回須坂新校再編実施計画懇話会を受けての構成員アンケートのまとめ」を再構成)

<テーマ1 新校における学科間連携について>

- 4 ITに関する学科か、情報システムを学ぶ学科を1クラスつukれないか。
- 6 Society5.0の時代の中、DX推進やデータサイエンスに係る人材の確保が急務。こうした人材育成にも力を入れてもよいのではないか。
- 7 中学生の段階で、自分の「興味」を明確にすることは難しく、高校生になってから、実際に授業や実習で自分にとって興味を持てる分野を見つける子どもたちは少なくない。そういう意味では、1年次に様々な分野の「さわり」を学ぶことができ、転科がしやすい学校運営になると、進路選択の幅が広くなり、生徒にとっても魅力的なのではないか。
- 8 交流授業を増やしたり、一定条件の下、途中で学科変更が可能な体制ができると面白い。学校に入ってみて思っていたことと違うということはよくあること。卒業してから学び直すという、生涯学習が必要であることを認識してもらい教育も必要と思うが、その時の熱も活かせれば、効果がある。
- 9 各学年で適性を判断して転科できるようにならないか。
- 10 普通科にプログラミングを看板授業として入れる。それをシステムハウスやメーカーなどのシステム部門でインターンシップを行う。
- 12 イノベーション（地域課題の発見・解決を含む）は、特定の専門を学んだ人だけから生まれるものではなく、ちょっとした気付き、疑問等から派生し、周りの人々の意見や技術を総合した中で生まれてくる。その意味で、普通科の生徒を含め職業科それぞれの生徒が、交流授業や学校生活の中で異なった考え方の人々と交流することによって、イノベーションの機運が醸成されてくる。普通科と農業・工業など様々な技術科が同じ学校の中にあるのはとても意義のあること。
- 17 学校内にとどまらず色々なバックグラウンドを持つ人々と連携、交流することは非常に有意義。
- 18 せっかく農商工のすべての事業分野がある学校なのであれば、新たな普通科は「共創」をしっかりと学べる学科になるとよい。多様な分野を知り、つなぎ、新たな価値を生み出せる、人やアイデアをつなぎ、新たな価値を生み出せる人材が育つ場所になるとよい。
- 19 普通科の生徒にとってみると、専門科で行っている授業等は、キャリア教育の一部にもなっており、普通科で学ぶ意義を早くから認識する一助にもなるので、選択科目として他の専門科の単位が取れたりすると好ましい。
- 20 特徴的授業を共同で受ける。

<テーマ2 須高地域との連携について>

- 14 今までの職業科と校外との連携に加え、更に新たな普通科での校外との連携となると、学校職員が対応できるのだろうか、負担が心配。

- 15 所在市である須坂市とは連携していくとのことだが、小布施町や高山村など周辺町村との連携も検討もraitたい。
- 16 地元の企業や自治体との連携が鍵になってくる。デュアルシステムなど、現在の須坂創成高校でも取り組まれている形を継承・発展していくことが重要。

<テーマ3 新たな普通科について>

- 1 中学生が進路選択するにあたり、新たな普通科が高校卒業後のどのような道につながるかの道しるべがほしいかもしれないと思う。
- 3 新校においてその「新たな普通科」をどういうテーマで設置するのか、多分「地域社会」に寄ると想像するが、その他の特色としてはどういった案があるのかを、追々提示して行って欲しい。
- 11 新たな普通科については、隠岐島前高校のように、週の1日は探究に使えるなど、まとまった時間の中で自分の興味を深掘できる時間が持てるよう、カリキュラムを工夫することができるとうい。「興味があることを思いっきりできる」という環境は一つの強み。それこそ進学校にはない優位性になる。

<その他>

- 2 同じ旧2通の学校として選択する側の生徒が、須坂新校と中野新校の2校の違いをより明確に理解していくような、わかりやすい説明が大切。保護者以前世代は、いずれも元職業科の高校と普通科の高校が一緒になるという認識があると思われるので（須坂園芸・須坂商業+普通科の須坂東、中野実業+普通科の中野西）、どちらも同じような高校として捉えられてしまう可能性は大きい。
- 5 須坂商業高校・園芸高校のルーツDNAを次世代へ引き継ぎ、残していくことで須坂創成高校が生まれた。須坂東高校のルーツDNAは須坂高等女学校、文化服装学院の小池千恵先生の母校で、ファッションデザイン科や、現代社会に必要な福祉介護科等がふさわしい。
- 13 ファッションデザイン科は文化服装学院との連携ができる。福祉介護科は看護学校との連携が取れる。
- 21 部活動でのアピールが私学に重きが行きすぎていて、公立での活躍が望まれる。多様な生徒が集まる新校では、是非部活動にも多様な力が発揮できるようにしてほしい。
- 22 部活動や生徒会活動については、一般的な学校にあるスポーツ関係の部活だけでなく、専門性を活かして取り組める文化活動部（プログラミングや機械工学、起業、農業など）が充実することも、学校の魅力になる。
- 23 部活動や生徒会活動は学科に関係なくでき、いろいろな考えを持つ生徒の交流が生まれるので、活発に行われることが望ましい。将来の共同作業の良い訓練にもなる。飯山高校の最近の活躍は、目覚ましい。良い高校改革は、部活動等を含め新しい学校の特色や良い伝統を作ると思う。